

## バイタルサインの実践的解釈と身体診察の裏ワザ

日時：平成23年11月27日（日）10：00～15：00

講師：徳田 安春 筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター教授 場所：神戸市産業振興センター

MHS 医学臨床セミナーが東京を飛び出し、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターの徳田安春教授を講師に迎え11月27日「バイタルサインの実践的解釈と身体診察の裏ワザ」をテーマに、兵庫県神戸市中央区の神戸市産業振興センターにおいて開催いたしました。

### バイタルサインを取るべき必要性を再認識しよう！

午前はバイタルサインの基本と日常診療でのバイタルサインについて講義をしていただきました。

現代的バイタルサインは、脈拍・呼吸・体温・血圧（動脈圧）に加えて静脈圧・意識・尿量・SpO<sub>2</sub>も重要視されています。

動脈圧が血管内圧力を測りますが、静脈圧は血管内容量を示しショックの鑑別や出血、脱水、心不全等の診断の参考にもなります。

尿量の評価は腎血流量を推測でき尿量モニタリングすることで循環不全の有無や循環血液量を評価することができます。

日常ケアの中でのバイタルサインとして特に血圧と脈拍に重点を置いて説明され、血圧計が無いときの上肢血圧左右差の診かたや脈のリズムなどを解説されました。

午後は急変時のバイタルサインと身体診察の裏ワザについての講義となりました。

10例あまりの症例を紹介し「バイタルサインのここを見る！」と題し各疾患時における重要なバイタルサインと診察のコツを解説されました。

「糖尿病で共通の無い急性心筋梗塞には注意！」「低血圧で早期梗塞所見が+でも、血圧の左右差を診て反対側の上肢血圧が高ければ大動脈解離を疑え」「脳梗塞のみにショックなし……

ショックがあれば他の要因も考慮」「頭部外傷のみにショックなし」などを挙げられ、東部の外傷でショック症状の場合、骨盤骨折など多量の出血を疑うなどのチェック点を話していただきました。



音声振盪のコツを説明する徳田先生

身体アセスメントでは疾患別のクラックル分類、打診や音声振盪による胸水・腹水のフィジカルアセスメントや共鳴音・濁音・鼓音の打診所見を実技で説明され、参加者の先生方にも実際に模擬患者さん相手におこなってもらいました。そのほか浮腫を説明された後、実際の音源を使用して心音や心雑音のデモンストレーションが行われました。

初めての地方開催セミナーで予想外の事も多少起きましたが、今後も各地で検討していきます。

次回セミナーは12月4日、東京タワー横にあります機械振興会館におきまして今シリーズ常連の先生方で人気のシムラ病院（前）亀田ファミリークリニック 館山 池尻好聰先生により「実習！ゼロからの筋骨格系診察『膝』『腰』」をテーマに開催いたします。